

えが

描く人、安彦良和

Yasuhiko Yoshikazu
Divine Animator and Draftsman

2025年11月18日(火)―2026年2月1日(日)

前期：**11月18日(火)―12月21日(日)**

後期：**12月24日(水)―2月1日(日)** ※会期中、展示替えあり

本展は、『機動戦士ガンダム』のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターであり、『アリオン』『ヴィナス戦記』等の漫画家兼アニメ監督、『ナムジー大國主』『虹色のトロツキー』『王道の狗』等の歴史漫画家としても活躍する安彦良和(1947年12月9日―)の創作活動を展望する回顧展です。

北海道遠軽町に開拓民の3世として生まれ、大学では学生運動に身を投じ、その後上京してアニメ制作に参加、漫画家に転身するなど、安彦が歩んだ激動の半生は、戦後日本の社会や文化のありさまを浮き彫りにするものです。

展覧会では初公開のものも含むアニメ制作の貴重な資料、美しいカラーイラスト、デビュー当初から最新作までの漫画原稿など、約50年間にわたる仕事の数々を紹介。圧倒的な画力、壮大なスケールの物語性、時代や歴史を見つける鋭い視線、天与の才能をもつ「描く人」。安彦良和のクリエイションの軌跡をたどります。

様々な“サブカル”の発信地である渋谷で本展を開催することは、改めていまや日本の強力な文化資源となったその豊饒さと混沌、多様性をふり返り、明日への道を探る機会となるのではないのでしょうか。



【1】© 創通・サンライズ © 学研・松竹・バンダイ
© 安彦良和・THMS © 安彦良和／潮出版社

展覧会公式サイト：<https://www.mbs.jp/yasuhikote>

渋谷区立松濤美術館公式サイト：<https://shoto-museum.jp/>

【開館時間】 午前10時～午後6時(金曜のみ午後8時まで)

【休館日】 月曜日(ただし11月24日、1月12日は開館)、11月25日(火)、
12月23日(火)、12月29日(月)～1月3日(土)、1月13日(火)

【入館料】 一般1000円(800円)、大学生800円(640円)、高校生・60歳以上500円(400円)、
小中学生100円(80円)

※()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料

※土・日曜日及び祝・休日は小中学生無料 ※毎週金曜日は渋谷区民無料 ※障がい者及び付き添いの方1名は無料

【会場】 渋谷区立松濤美術館(渋谷区松濤2-14-14)

【交通案内】 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分 JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

<日時指定予約制のお知らせ>

2026年1月24日(土)～2月1日(日)は、会期末で混雑が予想されるため、「日時指定予約制」となっております。上記期間は事前にご予約のうえご来館ください。予約受付開始は予約日の1ヶ月前を予定しております。詳細は12月に当館ホームページ・SNS等でお知らせする予定です。

主催：渋谷区立松濤美術館、毎日新聞社

企画制作：MBS テレビ

企画協力：PONTOON

協力：アニメ特撮アーカイブ機構、潮出版社、NHK出版、科学映像館を支える会、Gakken、KADOKAWA、九月社、講談社、スタジオぬえ、創通、中央公論新社、東映、東北新社、バンダイナムコフィルムワークス、文藝春秋



【2】安彦良和近影

安彦良和（やすひこ・よしかず）略歴

1947年北海道遠軽町に開拓民の3世として生まれる。66年弘前大学入学、学生運動に参加し退学となり上京。『機動戦士ガンダム』でキャラクターデザインとアニメーションディレクターを担当、『クラッシャージョウ』で劇場版アニメの監督を務め、自身が原作の劇場版アニメとしては『ネオ・ヒロイック・ファンタジア アリオン』『ヴィナス戦記』、テレビアニメ作品では『巨神ゴッグ』等を生み出す。後にマンガ家に転身し『ナムジ』『ジャンヌ』といった歴史漫画や、『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』他を精力的に発表。現在『銀色の路一半田銀山異聞一』を執筆中。

展覧会構成

◆ 1章 北海道に生まれて

北海道遠軽町のハッカ農家に生まれた安彦良和。さしたる絵画教育などは受けたことはありませんでしたが、幼い頃から描くことに対する探究心が尽きなかったといいます。中学時代の授業の要点をまとめたイラスト入りのノート『重点整理帳』や、弘前大学時代に完成させた漫画『遙かなるタホ河の流れ』などにより、「描く人」の原点を探ります。

しかしこの大学時代に身を投じた学生運動により、安彦は大学を退学となり上京。思いがけず次なる人生の扉を開くこととなります。

◆ 2章 動きを描く

上京後、偶然見かけた求人広告から、安彦は生活のため、アニメーション制作会社である「虫プロダクション」の養成所に入所し、研修生を経て、アニメーターとして活躍を始めます。漫画やイラストを自己流で描いてきた安彦ですが、すぐにその卓越した画力はアニメーション業界において注目を集めるようになります。本章では、安彦が携わった初期のアニメーション作品『わんぱく大昔クムクム』（1975-76）、『宇宙戦艦ヤマト』（1974-75）、『無敵超人ザンボット3』（1977-78）などを紹介します。

◆ 3章 カリスマ・アニメーターの誕生

花形アニメーターとして脚光を浴びる存在となった安彦良和。彼がキャラクターデザインとアニメーションディレクターを務めた『機動戦士ガンダム』（1979-80）は、社会現象を巻き起こすほどの人気作品となりました。

本章では、様々な資料で『機動戦士ガンダム』の制作において安彦良和が果たした役割を辿ります。



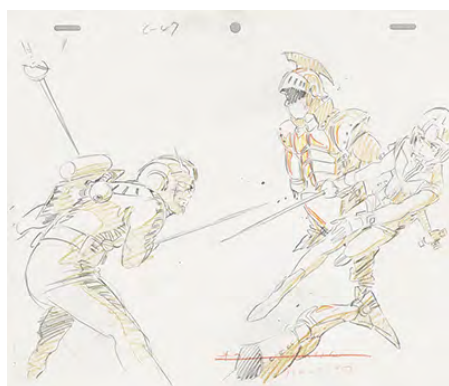
【3】『遙かなるタホ河の流れ』上巻より



【4】『無敵超人ザンボット3』
設定資料 ザンボット3
武装ザンボット・ブロー決定稿
© 創通・サンライズ



【5】『さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち』ポスター原案
© 東北新社／著作総監修 西崎 彰司



【6】『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙（そら）編』（シャアとアムロの決闘）原画 © 創通・サンライズ



【7】『機動戦士ガンダム』（劇場版）宣伝ポスター用イラスト原画 1981年 © 創通・サンライズ

◆ 4章 アニメーターとして、漫画家として

『機動戦士ガンダム』もその一翼を担った 1980 年代のアニメーションブームの中で、安彦はアニメーションの監督、小説の挿絵、漫画執筆と次々に新たな挑戦を始めます。『クラッシャージョウ』（小説挿絵：1977-、劇場版アニメ：1983）、『巨神ゴッグ』（テレビアニメ：1984）、『アリオン』（漫画：1979-84、劇場版アニメ：1986）、『ヴィナス戦記』（漫画：1986-90、劇場版アニメ：1989）など、本章では、この時代の多彩な活躍を概観します。



【8】『クラッシャージョウ』
『ジ・アニメ』1983年2月号表紙イラスト原画
© 高千穂 & スタジオぬえ・サンライズ



【9】『アリオン』より
© 安彦良和



【10】『ネオ・ヒロイック・ファンタジア
アリオン』
ポスター原画 © 安彦良和・THMS



【11】『巨神ゴッグ』
『アニメージュ』1983年8月号付録
ポスター原画 © サンライズ

◆ 5章 歴史を描く

90 年代に入る頃、漫画に専念するようになった安彦は、神話を再解釈して古代日本をダイナミックに描いた『ナムジ』（1989-91）を皮切りに、歴史漫画家として活躍を始めます。また近代史を舞台に『虹色のトロツキー』（1990-96）や『王道の狗』（1998-2000）など、歴史の渦に翻弄されながら懸命に生きる「小さき者」たちを主役とした作品群を生む一方、西洋史やキリスト教文化を主題とした『ジャンヌ』（1995-96）などの作品も手がけています。



【12】『ナムジ』より
© 安彦良和／KADOKAWA



【13】『虹色のトロツキー』第5集
第3章より 漫画原稿 1994年
© 安彦良和／潮出版社



【14】『王道の狗』より



【15】『ジャンヌ』愛蔵版カラーイラスト原画
2002年 © 安彦良和

◆ 6章 安彦良和の現在 (いま)

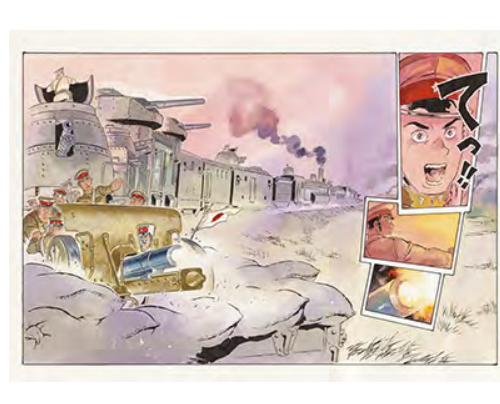
約 25 年間漫画に専念していた安彦は、『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』（漫画：2001-11、2015、アニメ：2015-18）を契機に、アニメーションに再び携わるようになります。本章では揺れ動く世界に眼差しを向けつつ、なお第一線で作品を生み出し続ける安彦の最新のアニメや漫画から、そこに込められた思いを読み解きます。



【16】 / 【17】『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』
Blu-ray Disc Collector's Edition (初回限定生産)』



V 激突ルウム会戦 / VI 誕生 赤い彗星
飾れる収納箱用イラスト原画 © 創通・サンライズ



【18】『乾と巽-ザバイカル戦記-』
第1話より 漫画原稿 2018年 © 安彦良和／講談社

【事前申込制イベント】

◆記念対談① 「虫^{いま}プロから現在へ」

安彦良和 × りんたろう（アニメーション映画監督）司会：氷川竜介（明治大学大学院特任教授、アニメ特撮研究家）

日時：11月23日（日・祝） 午後2時～（約1時間30分）

場所：地下2階ホール ※定員80名（要事前申込、抽選制） ※無料（要入館料）

◆記念対談② 「現在^{いま}だからこそ…語ってよかったですか？」

安彦良和 × 小林よしのり（漫画家、評論家）

日時：11月29日（土） 午後2時～（約1時間30分）

場所：地下2階ホール ※定員80名（要事前申込、抽選制） ※無料（要入館料）

申込方法：往復はがきまたは美術館 HP の申込フォームにて承ります。

※1回のお申し込みにつき1名のみ申込可（同一人による複数申込は不可）

※往復はがき：参加希望のイベント名、〒・住所・氏名（ふりがな）・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、安彦良和展イベント係まで。

①②の応募締切（必着）11月5日（水）まで

【その他イベント】

A. 学芸員によるショートレクチャー：展覧会の内容について解説します。各回とも同一の内容です。

11月21日（金）、11月24日（月・休） 各日午前10時30分～（約30分）

B. 美術館の建築紹介スライドトーク：白井晟一設計の美術館建築についてスライドをご覧いただきながら解説します。

11月21日（金）、11月28日（金） 各日午後6時～（約30分）

A・Bとも※場所：地下2階ホール ※直接会場にお越しください ※無料（要入館料）、予約不要 ※各回定員80名（先着順）

次回展覧会のご案内：2026年3月8日（日）～3月22日（日）

「2026 松濤美術館公募展」

「サロン展：白井晟一の建築原図（仮）」

報道関係のお問い合わせ

渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

広報担当（白石）：pr-sma@shoto-museum.jp

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

広報画像申込について

広報画像をご希望の場合は、本プレスリリース掲載画像【1】～【18】をデータでご提供します。作品名の前にある番号をお知らせください。

【広報用画像使用に関する注意事項】

■本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。

■展覧会名、会期・会場名のほか、画像掲載の際は作品名、コピーライトを必ずご掲載ください。

■画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・改変はできません。

■転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。

■webサイトに掲載する場合は、72dpi以下、400×400pixel以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。

■基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを広報担当にお送りください。

■掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、掲載URL、同録DVDを広報担当までお送りください。